

学生大使 実施報告書

氏名：石毛 翼

学部・学科（コース）・学年：工学部・化学バイオ工学科応用化学・化学工学コース 1年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2週間

1 日本語教室での活動内容

「日向クラブ」での日本語教室は、平日の18時から19時半に行われた。日向クラブのメンバー1人につき、日本人が1,2人で授業を行った。日向クラブの中には今まで日本語に触れたことがなかった人や日本語を自由自在に操り、日本人と遜色ない人まで様々なレベルのメンバーがいた。私の場合、毎授業ごとに違うメンバーに教えていたのでその人のレベルに合わせて授業を行った。

具体的には、日本語がまだ習いたての人にはまず平仮名を教えることにした。平仮名の形とその平仮名から始まる言葉の読み方が記されている教材を用意し、私が平仮名の書き順を示したあとにその平仮名を書いてもらい、その後その平仮名を含む言葉を一緒に読んだ。

また、自前の問題集を使って日本語を学習している人がいた。彼らにはその問題を解いてもらい間違っている箇所は、私が正しい読み方や書き方を教えた。

他にも日本から持参したお茶を飲んだり、折り紙をみんなで折ったりして日本文化に触れた。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外では、英語の授業に参加させてもらった。具体的な授業内容は、5人の現地学生から成る6つのグループに2人の日本人が日本を紹介しながら順に回っていくというものだ。その際に事前に用意したプレゼンを使うはずだったが、私のプレゼンの完成度が低すぎるせいで一緒に組んでいた人の非常に分かりやすく完成度が高いプレゼンに頼りきりになってしまったので猛省している。

また、現地の学生に色々な場所に連れて行ってもらった。具体的には、ホテル近くのカラオケ屋に行った。私の趣味はカラオケに行くことであり、自己紹介の際にそのことを話したところ現地学生の厚意により、カラオケに連れて行ってもらえることになった。カラオケルームの中は日本のものとは違って、すごく煌びやかで広々としていた。日本とベトナムの歌を歌い合う中で盛り上がり、心の距離が縮まったと感じた。とても充実した時間を過ごす時間ができた。

他には大型ショッピングモールやオーシャンパーク、文廟、ハロン湾、バッチャン村、玉山祠、ホアロー刑務所に連れて行ってもらった。この中で特に印象深かった場所は、「ハロン湾」である。当初のスケジュールでは、そこに行く予定が無かったが急遽、偶然ウインタースクールで訪れていた同大学の農学部の方々とも合流してそこに行けることになった。そこ

【学生大使 実施報告書】

では、クルージングとカヌーをしたが流石世界遺産ということだけあって壮観な風景に心を奪われた。日本では味わえないような大自然のパノラマを見ることができてよかった。

それに加えて、私は体を動かすことが好きなので現地学生にサッカーに連れて行ってもらった。外国の人とサッカーをするのは初めてだったのでとてもわくわくしていた。国籍にかかわらず、みんなで協力してゴールを決めようとプレーする姿を見て私はスポーツは世界共通の文化であると再確認することができた。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私が本プログラムへ参加するにあたって設定した達成目標は「コミュニケーション能力の向上」と「積極性を高める」ことである。前者の目標の達成度はまずまずといったところだろう。私の英語が拙いせいで円滑にコミュニケーションがとることが難しく、会話が止まってしまうような場面がしばしばあったが、そういう時は知っている単語を組み合わせることで説明をしたり、翻訳アプリを使って何とか意思疎通ができるように努力した。

後者の目標は概ね達成できたかと思われる。自分がやりたいことに積極的に挑戦することができ、未知の食材も進んで食べることができた。プログラム参加以前の私であれば躊躇していたであろうことも、ベトナムに来て自分を変えたいという強い意志を保つことに努めて積極的にチャレンジすることができた。

4 プログラムに参加した感想

私自身、海外に行ったのは今回のプログラムが初めてであって渡航前は不安しかなかったが実際に行ってみるとそれほどではなかった。現地学生の皆が私たちが、ベトナムで楽しく過ごせるように尽力してくれたおかげで大変充実した時間を過ごすことができた。2週間ベトナムで過ごして感じたことはいくつかある。

まずは、ベトナムの道路についてだ。以前から、ベトナムの道路は「譲り合い」ではなく「譲らせ合い」ということは知っていたが、実際に目の当たりにすると日本との違いに驚いた。私たちが渡ろうとしても誰も止まろうとすることはなく、通行量が少なくなった時に渡ることを余儀なくされた。また、自動車よりもバイクの数の方が圧倒的に多いことにも驚いた。

次に、食事についてだ。ベトナムは日本よりも物価が安くて日本では考えられないが、1食200円前後で満足な食事をとることができた。ベトナムでの食事は日本と違って麺とパンが中心で、米は2週間の間にほんの数回しか食べることができなくて少しだけつらかった。しかし、食事自体は日本人好みのもので美味しかったのであまり問題は無かった。

そして、ベトナム人についてだ。英語を中心として話していく中で、私は彼らが日本人と似ていると感じた。冗談を言い合ったりして笑ったり、時には相手のことを思いやって行動したりまるで日本人と一緒にいるようにすら感じた。

私はこのプログラムに参加して本当に良かったと感じている。実際に、現地に行くことでしか得られないものを多く得ることができたからだ。また、大切な仲間と思い出をたくさん作ることができたので、いつかもう1回ベトナムに行こうと思っている。

【学生大使 実施報告書】

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を踏まえて私は、もっといろんな国を訪れたいと感じた。以前まで海外に行くことに何となく抵抗を感じていたが、実際に海外を訪れてその国の文化に触れることで、私は様々な刺激を受けることができ、前より視野が広がったと思った。ただ英語によるコミュニケーションは不可欠であると思われるので、今後も英語が上達するように努力していきたい。

6 現地での活動写真

写真1 アオザイ

写真1 貼付欄



写真2 サッカー



写真3 ハロン湾



写真4 日本語授業風景

